

平成 23 年度

事業所名：グループホーム ゆうゆう黒川

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100055		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	流通商事株式会社グループホームゆうゆう黒川		
所在地	盛岡市黒川7地割37番地8		
自己評価作成日	平成23年12月12日	評価結果市町村受理日	平成 24年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silverz.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0390100055&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 23年 12月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人のペース」や「思い」や「今」を大切にしています。できることやしたいことを事業所や介護者の都合により制限したり、物事を押し付けることなく、そっと見守りながら入居者さんの暮らしのお手伝いをしています。
また、介護や生活支援の視点を持ち提案しながら、自分のことを決めて頂けるよなお手伝いを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は郊外の静かな住宅地に立地し、2階建ての民家を増築・改装した建物であるが、外観上周辺の民家と違和感なく溶け込んでいる。すぐ近くに公民館があり、鍵の保管や会議での利用など日常的に交流・協力関係ができています。「その人の思いや生活を大切にする」という方針のもと、起床、食事、入浴等の生活時間や外出先の希望などは、共同生活にあっても可能な限り一人一人に合わせた支援に努め、個人の生き方を尊重する強い姿勢とその具体的な実践がみられる。また、介護計画も各職員による綿密なモニタリングを積み上げて作り上げるとともに、計画上の「利用者の思いや希望」の達成度を利用者ごとに日々記録し、確認しながら取り組むなど、利用者の願い・希望に沿った支援を確かなものとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 23 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう黒川

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者さんの思いや暮らしの支援を重要視している。地域の中で暮らすこと、今までの利用者さんが関わってきた地域とのつながりも大切にしながら取り組んでいる。	利用者の尊厳と思い、その人の生活を大切にするという理念は職員に共有され、実践されている。現在、開設4年目を迎え、理念をより分かりやすい表現に改め一層のサービス向上につなげていくため見直し中である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の暮らしの中で買い物や散歩に出かけ自然な形で地域生活を送っている。	玄関先での近隣住民とのバーベキューの実施や近くの公民館、中学校の行事などへの参加、町内会への加入、さらに公民館利用者のための鍵の保管預かりなど、地域の一員としての役割を担いながら交流にも積極的に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を通じて認知症の理解やホームの取り組みを紹介している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの取り組み、近況、苦情、事故などの報告・意見交換を行いながら意見や助言などあれば活かせるように努めている。	メンバーは利用者、家族、包括支援センター、地域住民となっており、利用状況や事故・苦情内容、具体的な支援状況等が丁寧に報告され、委員からは率直な意見や提言・助言も述べられている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者も関わりながら入居したもいらいしますが、現在は積極的な連絡は行っていない。	包括支援センターには、運営推進会議や訪問を通じてホームの運営やケアの状況等を報告し実態を知ってもらうよう努めている。市の担当職員にも問い合わせや相談には適切に対応してもらっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なっていない。玄関のかぎは夜間のみ行なっている。ベットの柵は必要な利用者さんのみにおつけしている。	玄関の施錠はじめ、身体拘束をしないケアへの職員の意識は高く、利用者の嫌がることはその原因を探り対応していくなど、身体面・精神面で拘束のないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム協会の研修参加での職員への報告、法人研修でも虐待について学ぶ機会を設けている。また、虐待に該当することがあった場合は管理者への報告義務を周知している。			

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が学ぶ機会には設けていない。介護支援専門員は必須の研修で学んでいる。入居にあたり利用者や関係者と相談しながら制度を利用している人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書などにより、できる限りわかりやすく説明し質問を受けながら理解や納得を得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問記入表にアンケートを設けている。また、随時、口頭でも受付けている。内容に関しては地域運営推進会議でも報告している。	利用者とは日々のかかわりの中から、また家族からは「訪問記入アンケート」などを通して気がついたことや意見・要望を把握している。アンケートでは「部屋が汚れている」などの声も寄せられサービスの改善につなげている。	「訪問記入アンケート」の取り組みに加え、今後さらに、より多く利用者・家族の意見・要望や思いが引き出せるよう把握の方法を工夫する事に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員運営会議で意見や提案する機会を設け反映させている。	月1回、職員運営会議を開催して業務運営やケア面のあり方について話し合っている。不在の職員にも「提起シート」により意見・提案を出してもらい、職員の共通理解を深めながら円滑な事業運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利用者の生活に合わせながら働きやすい勤務になるよう任せている。職員ひとりひとりがやりがいや向上心を持って働くことができるように事業所づくりの一環として取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会主催の研修、法人としての研修、他のグループホームとの交換研修も行った。また、代表者と管理者の会議を定期的に行い管理者を育てる努力も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム協会岩手県支部の役員でもあり、研修会や他のホームとの交換研修も企画し行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前訪問の際に話を聞いている。また、入居されてからも行動や会話などからその方に安心して頂くための情報を共有し関係作りに役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、思いや要望をお伺いしている。(ここ1年で新しい利用者さんはご入居していない)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	項目15・16を組み合わせ行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を作る時、買い物に行った時、何かわからない時に利用者さんから教えて頂いたり伺ったりしながら日々を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問された際など健康のことや生活のことを相談しながら共に支えている。また、日々の暮らしに関連するような利用前のや昔のことなどもお聞きしながら共にご本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた地域で暮らす密着サービスの意義を大切に考え、行きつけの店の利用、馴染みの知人と会うことができるような支援を心がけている。また、住み慣れた家に行く機会も頻繁に設けている。	住み慣れた家の訪問や行きつけの理・美容室の利用、スーパーへの買い物のほか、馴染みの知人との行き来など、可能な限り利用者の希望に応じて馴染みの人や場との関係が継続するよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	基本的には自然な形で関係ができるように見守っている。会話が生まれたり、誘われたり、手伝ったりのよい関係も見られる。、トラブルや孤立感が強い方にはさりげなくお手伝いをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去なさった方への訪問や家族さんをバーベキューにお誘いするなどのお付き合いがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんの思いや希望を理念にある通り重視している。「私の願い(介護計画)」も利用者さんの思いを中心に取り入れ日々を過ごしている。	利用者との日々の会話のほか、きめ細かく作成し随時書き加えている「私の思いや希望(介護計画)」をもとに本人の意向や思いを把握している。困難な場合は本人本位にその思いを推し量りながらケアに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居後、ご本人や家族などからお伺いし、また、入居後も日々の会話などから知り得たことを記録しながら共有し活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言葉、表情、動きなど気付いたことを記録に残しながら把握や共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さんの暮らしに関することをまとめながら、利用者さんの思いを大切に計画をつくっている。振り返りは職員全員で行い次の計画に活かしている。	本人の納得が得られるようにと、様々な情報を集め暫定的な計画を作り、試行し、モニタリングを行い、その結果を基に修正し介護計画を作成している。これらの作業は職員全員で取り組み情報の共有にもつながっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画の実施記入以外にその他の欄があり、気づきなどを記入し共有している。また、利用者さんの暮らしに関することをまとめる際に気づきなども記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容、訪問歯科、フットケアなどが希望や必要に応じ利用できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の班にも入っており回覧も利用者さんが見たり隣の家に届けることもある。また、美容室や商店などにも頻繁に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関を決めて頂いている。記録は一貫性のあるもので共有しやすくしている。利用者さんが受診を希望されない場合は日を改めたり、楽しくなるような雰囲気を作りお勧めしている。	医療受診は利用者・家族の希望する医療機関としている。受診の付き添いは職員が代行しているが、協力が得られる家族には同行してもらっている。また月1回、「利用者の健康記録表」をコピーし家族に送付している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携し週1回の訪問時に相談や提案など受けている。また、随時の電話相談や必要に応じての訪問ができる体制である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できる限りかかりつけの医療機関へ入院できるようにしている。また、ご本人の生活状況や性格などを伝え安心して療養できるようにしていると共に家族さんと一緒に出向き病状説明を聞いたり話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じ話し合いを持ち方向性を決めている。	重度化や終末期の取り組みについては、ホームの介護力に対応が可能な限り支援していくことを契約時によく説明し、理解・納得を得ている。入居後は本人の状況に応じて、本人・家族と話し合い、方針を共有しながら支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、定期的な訓練は行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成している。避難訓練に関して今年度は1回避難訓練を行っている。また、地域運営推進会議でも取り上げ協力体制の相談もしているほか、災害時は隣の家の方にも協力を頂けるようになっている。	防災計画を作成し、年1回避難訓練を実施している。災害時、隣家の住民の協力は得られているが、より多くの協力を得ることが課題となっている。	災害時は地域住民の協力が必要不可欠と思われるので、関係者にも相談しながら地域住民とのより以上の協力体制を築き、万全を期されるよう期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	子供扱いのような言葉にならないよう気を付けている。部屋に勝手に入ることなくお伺いしながらおじゃましている。プライバシーを守ることにに関して事業所として深く勉強しさらに配慮したい。	人生の先輩として敬う気持ちで接することを基本姿勢として、職員で確認し合いながら、利用者の誇りやプライバシーを損ねないやさしい言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	こちらで決めたことを提供するのではなく、希望をお伺いしたり、様々な選択肢の中から選んでもらえるようにしている。決めて頂けるような伝え方をしたり、選択肢をいくつか用意するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースで起きたり食べたり、休んだりしている。部屋で過ごしたい方はゆったりと部屋で過ごし自由な暮らしができるようにしている。一部の職員は職員のペースを押し付けていることもあり、事業所としての課題がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい物を着て頂いている。ご本人がタンスから選べない方はタンスから出し選んで頂いている。美容室、服や化粧品の買い物のお手伝いもしている。ヒゲが伸びていたり、爪がのびていることがあるのでもう少し支援が必要と感じる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理をしたい人は希望に応じて一緒にしている。食べたい物をお伺いしたり買い物の際に好きな物を選んでもらったりしている。料理が好きでない人にはおいしく食べて頂けるように相談しながら料理の代行もしている。	利用者の好みを取り入れた食事とするため、スーパーには利用者と一緒に出掛け食材を選んでもらっている。調理や配膳、後片付けなども希望する利用者と共に行い、職員と会話しながら和やかな雰囲気の中でそれぞれのペースで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食の量を共有している。また、飲食の量が少ないと思われる時でも強制的にせず、その人のペースや流れの中でおにぎりや好きな物が食べられるようにお手伝いをしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員、毎食後ではないが、寝る前にさりげない関わりや説明をしながらお勧めしている。週に3回、ご本人の了解を得て入れ歯の洗浄をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人のペースや行きたいような素振りに合わせお手伝いしている。夜はリハビリパンツやオムツでも日中は普通の下着など状況に合わせている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表や本人のしぐさなどから察知してさりげなくトイレ誘導している。夜はリハビリパンツを使用している利用者も、日中は使用せず、その人なりの自立と気持ちの良い排泄の支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、希望される方にはヨーグルト・ヤクルト・牛乳を選んで飲んで頂いている。また、飲み物を自分で準備できない方にはのどが渇いていませんか？などの声をおかけし飲む工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	寝る前に入りたい方への準備もしている。午後は時間の希望があれば合わせている。面倒という方には楽しい会話など気持ちよく入って頂ける工夫をしている。	入浴は利用者の希望に応じて、柔軟に対応している。入浴を希望されない利用者には足湯にする等、無理強いせず、タイミングを見て別の日に促すなど、気持ち良い入浴に繋がるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に起こしたり寝せたりせず、それぞれの利用者さんのペースに合せ好きな時間に起きたり寝たりして頂いている。夜間は特に掛け物、室温に気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をまとめ見やすいようにしている。症状の変化については健康の記録に記入し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の中で得意なことや好きなことを見つけ張り合いのある生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的におやつや服など買い物などのお手伝いをしていてできるだけ希望の日時に行けるように努力している。また、普段行けないような場所にはご家族とも相談しながら行けるような努力をしている。	同じ希望の利用者数人の外出が多いが、可能な範囲で各個人の希望にも応えている。日常的な食材、おやつ、服などの買い物やドライブのほか、季節の花見、紅葉狩りなど家族の協力を得て一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が持ちたいとの希望がある方にはご家族とも相談の上お持ち頂いている。お金を持つことの大切さを踏まえ自己管理に関しての説明をしている。また、立替や事情に応じお小遣いの預かりもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使って頂けるようにしている。自分ではかけのが難しい方には番号を回したりのお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の戸に希望に応じ暖簾をつけたり、テレビの音量、室温にも配慮している。家庭的な雰囲気を壊さないような環境を整えている。	2階建ての民家を増築・改装した建物で、台所・居間・廊下はゆったりとして家庭的な雰囲気が感じられる。ソファやいすは室内、玄関先にほどよく置かれ、時に思い思いに過ごせるよう工夫されている。床暖房の設置と十分配慮された採光で、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にもソファやイスを置いていて自由に使ったりくつろげるようにしている。。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	鏡、タンス、アルバム、テレビ、冷蔵庫などなど、その人の希望する物や馴染みの物をお持ち頂くようにお勧めし、その人の暮らしのお手伝いをしている。	居室の広さは様々であるが、利用者は使い慣れたベッドやタンス、TV、冷蔵庫、馴染みの置物などを持参し、好みに応じて程よく配置し、落ち着いて過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや便所の表示、段差にはわかりやすいようにテープを張るなど工夫している。また、廊下に目立つようにほうきを吊り上げたり、居間の外に物干しを置くなど見えることで動けるような環境を作っている。		